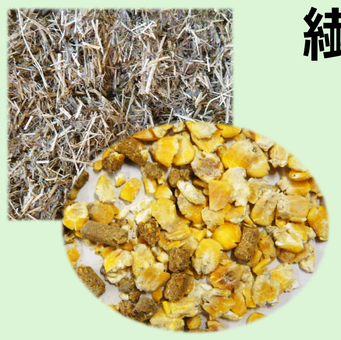
効率よく乳牛の栄養になる 牧草サイレージはこれだ！

概　要 Abstract

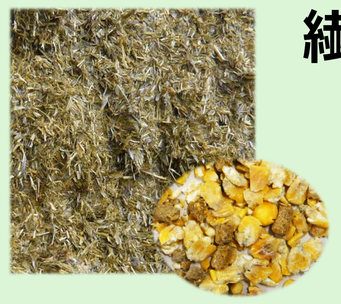
牧草サイレージの繊維の含量と消化性は
乳牛の摂取量の指標になります

繊維の含量が低く、消化が良いと
牧草サイレージからの栄養摂取量が多く、
自給飼料の割合を高められます



繊維含量が高く、消化が悪いと…

- 栄養価が低い
- たくさん食べられない
- 栄養価を補う濃厚飼料が多く必要
  （トウモロコシ、麦類、大豆粕など）

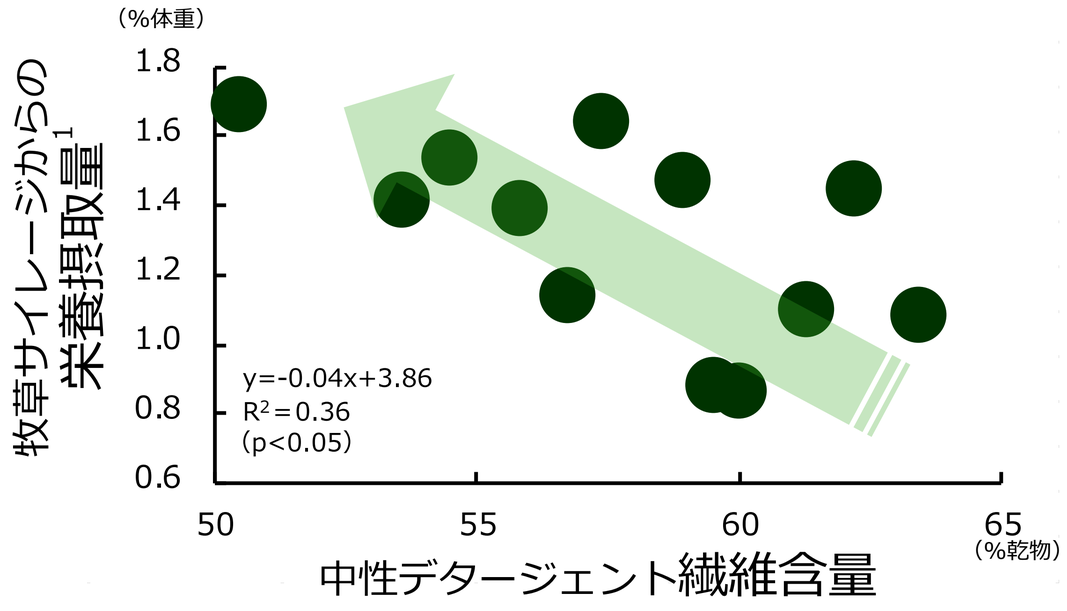


繊維含量が低く、消化が良いと…

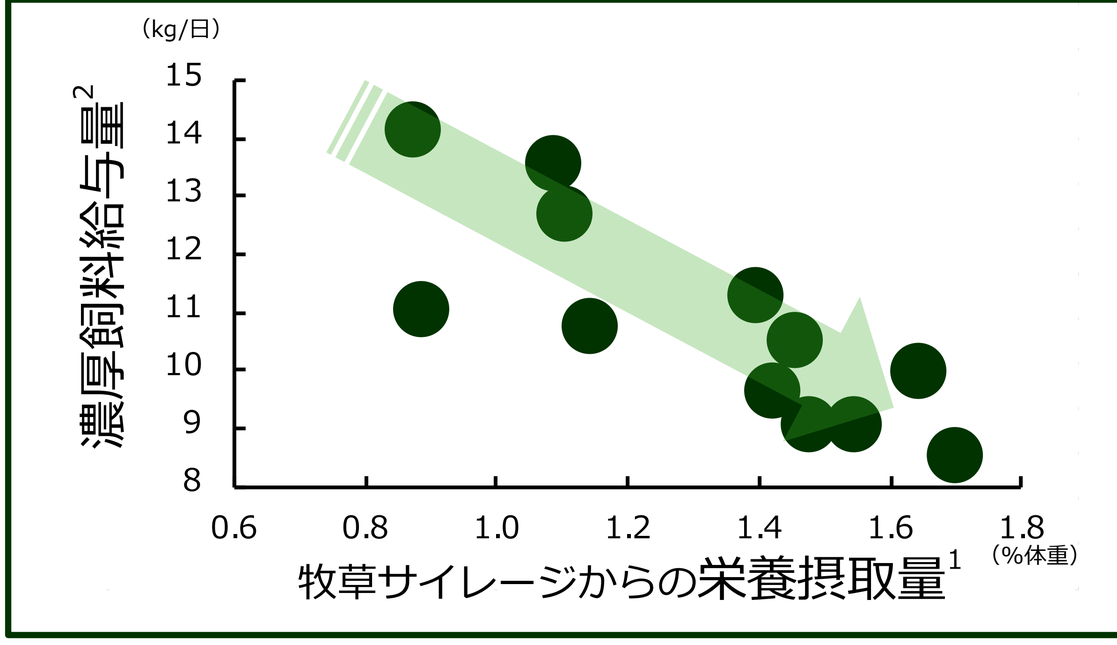
- 栄養価が高い
- たくさん食べられる
- 濃厚飼料の必要量が減る

成　果 Results

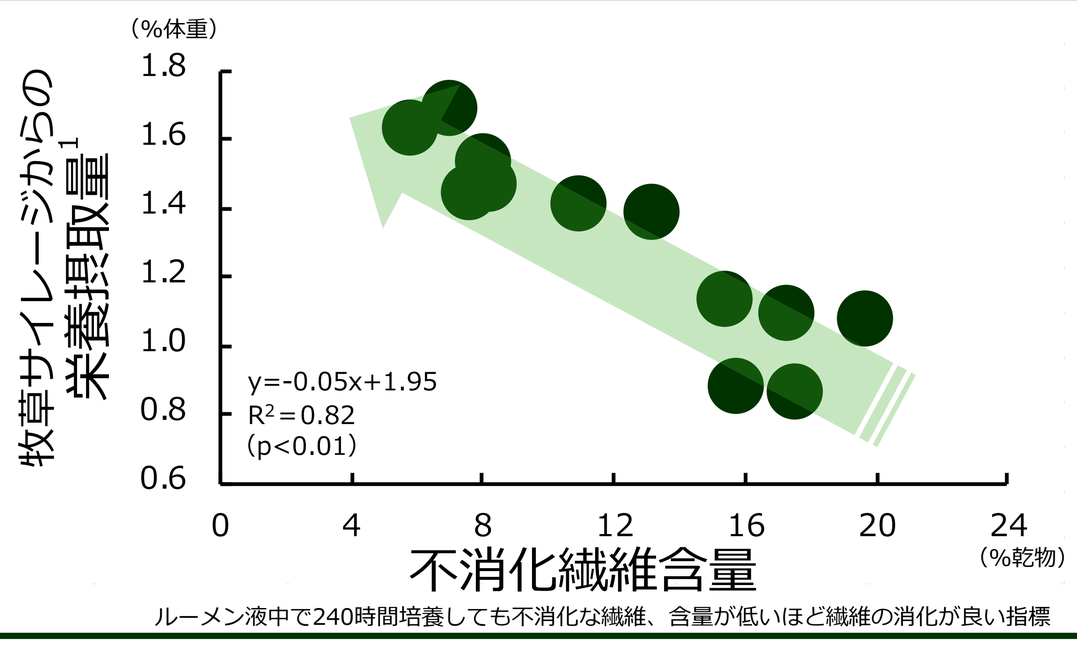
牧草サイレージの繊維の ”含量が低い”と摂取量が増加



摂取量の多い牧草サイレージでは乳量を下げずに 濃厚飼料給与量を減らせる



牧草サイレージの繊維の ”消化が良い”と摂取量が増加



ルーメン液中で240時間培養しても不消化な繊維、含量が低いほど繊維の消化が良い指標

✓牧草サイレージからの栄養摂取量[1]は、
　繊維含量1ポイント低下⇒0.04ポイント増加
　不消化繊維1ポイント低下⇒0.05ポイント増加

✓繊維含量55%未満または不消化繊維
　10%未満の牧草サイレージなら
　飼料中の割合を60%以上に高められる[3]

[1] TDN（可消化養分総量）摂取量
[2] 乾物給与量24kgのときの圧片トウモロコシと大豆粕の必要量
[3] 乳量水準9,000kg（日乳量30kg）の泌乳牛の飼料設計

普　及 Dissemination

酪農家、粗飼料生産支援組織および普及センター等が
牧草サイレージ摂取可能量の指標として活用することで
飼料自給率の向上が期待できます。

連絡先 Contact

酪農試験場
酪農研究部 乳牛グループ
０１５３－７２－２００４
konsen-agri@hro.or.jp